校異源氏物語・わかむらさき

わらはやみにわつらひ給てよろつにましなひかちなとまいらせ給へとしるしなくてあまたたひおこり給けれはある人きた山になむなにかし寺といふ所にかしこきをこなひ人侍るこその夏も世におこりて人　くましなひわつらひしをやかてとゝむるたくひあまた侍りきしゝこらかしつる時はうたて侍をとくこそ心みさせたまはめなときこゆれはめしにつかはしたるにおいかゝまりてむろのとにもまかてすと申たれはいかゝはせむいとしのひてものせんとの給て御ともにむつましき四五人はかりしてまたあか月におはすやゝふかういる所なりけり三月のつこもりなれは京の花さかりはみなすきにけりやまのさくらはまたさかりにていりもておはするまゝにかすみのたゝすまひもおかしうみゆれはかゝるありさまもならひ給はすところせき御身にてめつらしうおほされけり寺のさまもいとあはれなりみねたかくふかきいはの中にそひしりいりゐたりけるのほり給ひてたれともしらせ給はすいといたうやつれ給へれとしるき御さまなれはあなかしこや一日めし侍しにやおはしますらむいまはこの世の事を思ひ給へねはけんかたのをこなひもすてわすれて侍るをいかてかうおはしましつらむとおとろきさはきうちゑみつゝみたてまつるいとたうときたいとこなりけりさるへきものつくりてすかせたてまつりかちなとまいるほとひたかくさしあかりぬすこしたちいてつゝみわたし給へはたかき所にてこゝかしこ僧房ともあらはにみおろさるるたゝこのつつらおりのしもにおなしこしはなれとうるはしくしわたしてきよけなるやらうなとつゝけてこたちいとよしあるはなに人のすむにかとゝひ給へは御ともなる人これなんなにかしそうつの二とせこもり侍るかたに侍るなる心はつかしき人すむなる所にこそあなれあやしうもあまりやつしけるかなきゝもこそすれなとのたまふきよけなるわらはなとあまたいてきてあかたてまつりはなおりなとするもあらはにみゆかしこに女こそありけれそうつはよもさやうにはすへ給はしをいかなる人ならむとくち　くいふおりてのそくもありおかしけなる女こともわかき人わらはへなんみゆるといふ君はをこなひしたまひつゝひたくるままにいかならんとおほしたるをとかうまきらはさせ給ておほしいれぬなんよく侍るときこゆれはしりへの山にたちいてて京のかたをみ給はるか

にかすみわたりてよものこすへそこはかとなうけふりわたれるほとゑにいとよくもにたるかなかゝる所にすむ人心におもひのこすことはあらしかしとの給へはこれはいとあさく侍り人のくになとに侍るうみ山のありさまなとを御らんせさせて侍らはいかに御ゑいみしうまさらせ給はむふしの山なにかしのたけなとかたりきこゆるもあり又にしくにのおもしろき浦うらいそのうへをいひつゝくるもありてよろつにまきらはしきこゆちかき所にははりまのあかしのうらこそなをことに侍れなにのいたりふかきくまはなけれとたゝうみのおもてをみわたしたるほとなんあやしくこと所ににすゆほひかなる所に侍るかのくにのさきのかみしほちのむすめかしつきたるいゑいといたしかし大臣のゝちにていてたちもすへかりける人のよのひかものにてましらひもせす近衛の中将をすてゝ申給はれりけるつかさなれとかのくにの人にもすこしあなつられてなにのめいもくにてか又みやこにもかへらんといひてかしらもおろし侍りにけるをすこしおくまりたる山すみもせてさるうみつらにいてゐたるひか　くしきやうなれとけにかのくにのうちにさも人のこもりゐぬへき所　くはありなからふかきさとは人はなれ心すこくわかきさいしのおもひわひぬへきによりかつは心をやれるすまひになん侍るさいつころまかりくたりて侍りしついてにありさまみたまへによりて侍りしかは京にてこそところえぬやうなりけれそこらはるかにいかめしうしめてつくれるさまさはいへとくにのつかさにてしをきける事なれはのこりのよはひゆたかにふへき心かまへもになくしたりけりのちの世のつとめもいとよくして中　くほうしまさりしたる人になん侍りけると申せはさてそのむすめはとゝひ給ふけしうはあらすかたち心はせなと侍るなりたい　くのくにのつかさなとよういことにしてさる心はへみすなれとさらにうけひかすわか身のかくいたつらにしつめるたにあるをこの人ひとりにこそあれおもふさまことなりもしわれにをくれてその心さしとけすこのおもひをきつるすくせたかはゝうみにいりねとつねにゆいこしをきて侍るなるときこゆれは君もおかしときゝ給ふ人

　くかいりうはうのきさきになるへきいつきむすめなゝり心たかさくるしやとてわらふかくいふははりまのかみのこのくら人よりことしかうふりえたるなりけりいとすきたるものなれはかの入道のゆいこむやふりつへき心はあらんかしさてたゝすみよるならむといひあへりいてさいふともゐ中ひたらむおさなくよりさる所におひいてゝふるめいたるおやにのみしたかひたらむははゝこそゆへあるへけれよきわかうとわらはなとみやこのやむことなきところ　くよりるいにふれてたつねとりてまはゆくこそもてなすなれなさけなき人なりてゆか

はさて心やすくてしもえをきたらしをやなといふもあり君なに心ありてうみの
そこまてふかうおもひいるらむそこのみるめもものむつかしうなとのたまひて
たゝならすおほしたりかやうにてもなへてならすもてひかみたる事このみ給御
心なれは御みゝとゝまらむをやとみたてまつるくれかゝりぬれとおこらせ給は
すなりぬるにこそはあめれはやかへらせ給なんとあるをたいとこ御もののけな
とくははれるさまにおはしましけるをこよひはなをしつかにかちなとまいりて
いてさせ給へと申すさもある事とみな人申す君もかゝるたひねもならひたまは
ねはさすかにおかしくてさらはあか月にとの給ふ人なくてつれ　くなれは夕
くれのいたうかすみたるにまきれてかのこしはかきのほとにたちいて給人　く
はかへし給てこれみつのあそむとのそき給へはたゝこのにしおもてにしも仏
すへたてまつりてをこなふあまなりけりすたれすこしあけて花たてまつるめ
り中のはしらによりゐてけうそくのうへにきやうををきていとなやましけによ
みゐたるあまきみたゝ人とみえす四十よはかりにていとしろうあてにやせたれ
とつらつきふくらかにまみのほとかみのうつくしけにそかれたるすゑも中　く
なかきよりもこよなういまめかしきものかなとあはれにみ給きよけなるおと
なふたりはかりさてはわらはへそいていりあそふ中に十はかりやあらむとみえ
てしろききぬ山ふきなとのなへたるきてはしりきたる女こあまたみえつること
もににるへうもあらすいみしくおいさきみえてうつくしけなるかたちなりかみ
はあふきをひろけたるやうにゆら　くとしてかほはいとあかくすりなしてたて
りなに事そやわらはへとはらたち給へるかとてあまきみのみあけたるにすこし
おほえたるところあれはこなめりとみ給すゝめのこをいぬきかにかしつるふせ
このうちにこめたりつるものをとていとくちおしとおもへりこのゐたるおとな
れいの心なしのかゝるわさをしてさいなまるゝこそいと心つきなけれいつかた
へかまかりぬるいとおかしうやう　くなりつるものをからすなともこそみつく
れとてたちてゆくかみゆるゝかにいとなかくめやすき人なめり少納言のめのと
ゝこそ人いふめるはこのこのうしろみなるへしあま君いてあなおさなやいふか
ひなうものし給かなをのかかくけふあすにおほゆるいのちをはなにともおほし
たらてすゝめしたひ給ほとよつみうることそとつねにきこゆるを心うくとてこ
ちやといへはつゐゝたりつらつきいとらうたけにてまゆのわたりうちけふりい
はけなくかいやりたるひたいつきかむさしいみしううつくしねひゆかむさまゆ
かしき人かなとめとまり給さるはかきりなう心をつくしきこゆる人にいとよう
にたてまつれるかまもらるなりけりとおもふにもなみたそおつるあまきみかみ

をかきなてつゝけつる事をうるさかり給へとおかしの御くしやいとはかなうものし給こそあはれにうしろめたけれかはかりになれはいとかゝらぬ人もあるものをこ姫君は十はかりにて殿にをくれ給ひしほといみしうものはおもひしり給へりしそかしたゝいまをのれみすてたてまつらはいかて世におはせむとすらむとていみしくなくをみ給もすゝろにかなしおさな心ちにもさすかにうちまもりてふしめになりてうつふしたるにこほれかゝりたるかみつや　くとめてたうみゆ

　をひたゝむありかもしらぬわか草ををくらす露そきえんそらなき又ゐたるおとなけにとうちなきて

　はつ草のおひ行すゑもしらぬまにいかてか露のきえんとすらむときこゆるほとに僧都あなたよりきてこなたはあらはにや侍らむけふしもはしにおはしましけるかなこのかみのひしりのかたに源氏の中将のわらはやみましなひにものし給けるをたゝいまなむきゝつけ侍るいみしうしのひ給ひけれはしり侍らてこゝに侍りなから御とふらひにもまてさりけるとの給へはあないみしやいとあやしきさまを人やみつらむとてすたれおろしつこの世にのゝしり給ふひかる源氏かゝるつゐてにみたてまつり給はんやよをすてたるほうしの心ちにもいみしう世のうれへわすれよはひのふる人の御ありさまなりいて御せうそこきこえんとてたつをとすれはかへり給ひぬあはれなる人をみつるかなかゝれはこのすきものともはかゝるありきをのみしてよくさるましき人をもみつくるなりけりたまさかにたちいつるたにかく思ひのほかなることをみるよとおかしうおほすさてもいとうつくしかりつるちこかななに人ならむかの人の御かはりにあけくれのなくさめにもみはやとおもふ心ふかうつきぬうちふし給へるに僧都の御てしこれみつをよひいてさすほとなき所なれは君もやかてきき給ふよきりをはしましけるよしたゝいまなむ人申すにおとろきなからさふらへきをなにかしこのてらにこもり侍りとはしろしめしなからしのひさせ給へるをうれはしくおもひ給へてなんくさの御むしろもこのはうにこそまうけ侍へけれいとほいなき事と申給へりいぬる十よ日のほとよりわらはやみにわつらひ侍るをたひかさなりてたえかたく侍れは人のをしへのままにはかにたつねいり侍りつれとかやうなる人のしるしあらはさぬときはしたなかるへきもたゝなるよりはいとおしうおもひ給へつゝみてなむいたうしのひ侍りつるいまそなたにもとの給へりすなはち僧都まいり給へりほうしなれといと心はつかしく人からもやむことなく世におもはれ給へる人なれはかる　くしき御ありさまをはしたなうおほすかくこもれるほ

との御物かたりなときこえ給ておなししはのいほりなれとすこしすゝしき水のなかれも御らんせさせんとせちにきこえ給へはかのまたみぬ人　くにこと　くしういひきかせつるをつゝましうおほせとあはれなりつるありさまもいふかしくておはしぬけにいと心ことによしありておなし木草をもうへなし給へり月もなきころなれはやり水にかゝり火ともしとうろなともまいりたりみなみおもていときよけにしつらひ給へりそらたきものいと心にくゝかほりいて名香のかなとにほひみちたるにきみの御をひかせいとことなれはうちの人　くも心つかひすへかめり僧都世のつねなき御ものかたりのち世の事なときこえしらせ給ふわかつみのほとおそろしうあちきなきことに心をしめていけるかきりこれを思ひなやむへきなめりましてのちの世のいみしかるへきおほしつゝけてかうやうなるすまひもせまほしうおほえ給ふものからひるのおもかけ心にかゝりて恋しけれはこゝにものしたまふはたれにかたつねきこえまほしき夢をみ給へしかなけふなむ思ひあはせつるときこえ給へはうちわらひてうちつけなる御夢かたりにそ侍るなるたつねさせ給ひても御心をとりせさせ給ぬへし故按察大納言は世になくてひさしくなり侍ぬれはえしろしめさしかしそのきたのかたなむなにかしかいもうとに侍るかの按察かくれてのち世をそむきて侍るかこのころわつらふ事侍によりかく京にもまかてねはたのもし所にこもりてものし侍るなりときこえ給かの大納言のみむすめもものし給ふときゝ給へしはすき　くしきかたにはあらてまめやかにきこゆるなりとをしあてにの給へはむすめたゝひとり侍しうせてこの十よ年にやなり侍りぬらん故大納言内にたてまつらむなとかしこういつき侍しをそのほいのことくもものし侍らてすき侍にしかはたゝこのあま君ひとりもてあつかひ侍しほとにいかなる人のしわさにか兵部卿の宮なむしのひてかたらひつき給へりけるをもとのきたのかたやむことなくなとしてやすからぬ事おほくてあけくれものをおもひてなんなくなり侍りにしものおもひにやまひつくものとめにちかくみ給へしなと申給ふさらはそのこなりけりとおほしあはせつみこの御すちにてかの人にもかよひきこえたるにやといとゝあはれにみまほし人のほともあてにおかしう中　くのさかしら心なくうちかたらひて心のまゝにをしへおほしたてゝみはやとおほすいとあはれにものしたまふ事かなそれはとゝめ給ふかたみもなきかとおさなかりつるゆくゑのなをたしかにしらまほしくてとひ給へはなくなり侍しほとにこそ侍しかそれも女にてそゝれにつけてもものおもひのもよほしになむよはひのするゑに思ひ給へなけき侍るめるときこえ給されはよとおほさるあやしきことなれとおさなき御うしろみにおほすへくきこ

え給てんやおもふ心ありてゆきかゝつらふかたも侍りなから世に心のしまぬにやあらんひとりすみにてのみなむまたにけなきほとゝつねの人におほしなすらへてはしたなくやなとのたまへはいとうれしかるへきおほせことなるをまたむけにいはきなきほとに侍めれはたはふれにても御らんしかたくやそも　く女人は人にもてなされておとなにもなり給ふものなれはくはしくはえとり申さすかのをはにかたらひ侍りてきこえさせむとすくよかにいひてものこわきさまし給へれはわかき御心にはつかしくてえよくもきこえ給はすあみた仏ものし給たうにする事侍るころになむそやいまたつとめ侍らすすくしてさふらはむとてのほり給ぬ君は心ちもいとなやましきに雨すこしうちそゝきやまかせひやゝかにふきたるにたきのよとみもまさりておとたかうきこゆすこしねふたけなると経のたえ　くすこくきこゆるなとすすろなる人も所からものあはれなりましておほしめくらすことおほくてまとろませ給はすそやといひしかとも夜もいたうふけにけりうちにも人のねぬけはひしるくていとしのひたれとすゝのけうそくにひきならさるゝをとほのきこえなつかしううちそよめくをとなひあてはかなりときゝたまひてほともなくちかけれはとにたてわたしたる屏風の中をすこしひきあけてあふきをならし給へはおほえなき心ちすへかめれとききしらぬやうにやとてゐさりいつる人あなりすこししそきてあやしひかみゝにやとたとるをきゝ給ひてほとけの御しるへはくらきにいりてもさらにたかうましかなるものをとの給ふ御こゑのいとはかうあてなるにうちいてむこはつかひもはつかしけれといかなるかたの御しるへにかおほつかなくときこゆけにうちつけなりとおほめき給はむもことはりなれと

はつ草のわかはのうへをみつるよりたひねの袖も露そかはかぬときこえ給ひてむやとの給ふさらにかやうの御せうそこうけ給はりわくへき人ものしたまはぬさまはしろしめしたりけなるをたれにかはときこゆをのつからさるやうありてきこゆるならんと思ひなし給へかしとの給へはいりてきこゆあないまめかしこの君やよついたるほとにおはするとそおほすらんさるにてはかのわかくさをいかてきい給へることそとさま　くあやしきにこゝろみたれてひさしうなれはなさけなしとて

枕ゆふこよひはかりの露けさをみ山のこけにくらへさらなむひかたう侍るものをときこえ給ふかうやうのつゐてなる御せうそこはまたさらにきこえしらすならはぬ事になむかたしけなくともかゝるついてにまめ　くしうきこえさすへきことなむときこえたまへれはあまきみひか事きゝ給へるならむいとむつか

しき御けはひになにことをかはいらへきこえむとの給へははしたなうもこそおほせと人　くきこゆけにわかやかなる人こそうたてもあらめまめやかにのたまふかたしけなしとてゐさりより給へりうちつけにあさはかなりと御らんせられぬへきつゐてなれと心にはさもおほえ侍らねはほとけはをのつからとておとなくしうはつかしけなるにつゝまれてとみにもえうちいて給はすけにおもひ給へよりかたきつゐてにかくまてのたまはせきこえさするもいかゝとの給ふあはれにうけたまはる御ありさまをかのすき給にけむ御かはりにおほしないてむやいふかひなきほとのよはひにてむつましかるへき人にもたちをくれ侍りにけれはあやしううきたるやうにてとし月をこそかさね侍れおなしさまにものし給ふなるをたくひになさせ給へといときこえまほしきをかゝるおり侍りかたくてなむおほされん所をもはゝからすうちいて侍りぬるときこえたまへはいとうれしう思たまへぬへき御事なからもきこしめしひかめたる事なとや侍らんとつゝましうなむあやしき身ひとつをたのもし人にする人なむ侍れといとまたいふかひなきほとにて御らんしゆるさるゝかたも侍りかたけなれはえなむうけ給はりとゝめられさりけるとの給みなおほつかなからすうけ給はへるものをところせうおほしはゝからて思ひ給へよるさまことなる心のほとを御らんせよときこえ給へといとにけなきことをさもしらての給とおほして心とけたる御いらへもなしそうつおはしぬれはよしかうきこえそめ侍りぬれはいとたのもしうなむとてをしたて給つあかつきかたになりにけれは法花三昧をこなふたうのせむ法のこゑ山おろしにつきてきこえくるいとたうとくたきのをとにひゝきあひたり

吹まよふみやまおろしに夢さめて涙もよほすたきのをとかな

さしくみに袖ぬらしける山水にすめる心はさはきやはするみゝなれはへりにけりやときこえ給あけ行空はいといたうかすみて山のとりともそこはかとなうさへつりあひたり名もしらぬ木草のはなとも色　くにちりましりにしきをしけるとみゆるにしかのたゝすみありくもめつらしくみ給になやましさもまきれはてぬひしりうこきもえせねととかうしてこしむまいらせ給ふかれたるこゑのいといたうすきひかめるもあはれにくうつきてたらによみたり御むかへの人

くまいりてをこたり給へるよろこひきこえうちよりも御とふらひあり僧都世にみえぬさまの御くたものなにくれとたにのそこまてほりいていとなみきこえ給ことしはかりのちかひふかう侍りて御をくりにもえまいり侍るましきこと中

くにも思ひ給へらるへきかななときこえ給ておほみきまいり給山水に心とまり侍りぬれとうちよりもおほつかなからせ給へるもかしこけれはなむいまこの

花のおりすくさすまいりこむ

　宮人に行てかたらむ山さくら風よりさきにきてもみるへくとの給御もてなしこわつかひさへめもあやなるに

　うとむけの花まちえたる心ちしてみ山さくらにめこそうつらねときこえたまへはほゝゑみて時ありてひとたひひらくなるはかたかなるものをとの給ふひしり御かはらけ給て

　おく山の松の戸ほそをまれに明てまたみぬ花のかほをみるかなとうちなきてみたてまつるひしり御まもりにとこたてまつるみ給て僧都さうとくたいしのくたらよりえたまへりけるこむかうしのすゝのたまのさうそくしたるやかてそのくによりいれたるはこのからめいたるをすきたるふくろにいれてこえうのえたにつけてこむるりのつほともに御くすりともいれてふちさくらなとにつけてところにつけたる御をくりものともさゝけたてまつり給ふきみひしりよりはしめと経しつるほうしのふせともまうけのものともさま　くにとりにつかはしたりけれはそのわたりの山かつまてさるへきものとも給ひ御す経なとしていて給うちにそうついり給てかのきこえ給しことまねひきこえ給へとともかくもたゝいまはきこえむかたなしもし御心さしあらはいま四五年をすくしてこそはともかくもとの給へはさなむとおなしさまにのみあるをほいなしとおほす御せうそこ僧都のもとなるちいさきわらはして

　ゆふまくれほのかに花のいろをみてけさはかすみのたちそわつらふ御返し

　まことにや花のあたりはたちうきとかすむる空のけしきをもみむとよしあるてのいとあてなるをうちすてかい給へり御車にたてまつるほと大殿よりいつちともなくておはしましにけることゝて御むかへの人　くきみたちなとあまたまいり給へり頭中将左中弁さらぬきみたちもしたひきこえてかうやうの御ともにはつかうまつり侍らむと思ひ給ふるをあさましくをくらさせ給へることゝうらみきこえていといみしき花のかけにしはしもやすらはすたちかへり侍らむはあかぬわさかなとの給ふいはかくれのこけのうへになみゐてかはらけまいるおちくる水のさまなとゆへあるたきのもとなり頭中将ふところなりけるふえとりいてゝふきすましたり弁のきみあふきはかなううちならしてとよらの寺のにしなるやとうたふ人よりはことなるきみたちを源氏の君いといたううちなやみていはによりゐたまへるはたくひなくゆゝしき御ありさまにそなに事にもめうつるましかりけるれいのひちりきふくすいしむさうのふえもたせたるすきものなとありそうつきむをみつからもてまいりてこれたゝ御てひとつあそはしておな

しうは山の鳥もおとろかし侍らむとせちにきこえ給へはみたり心ちいとたへかたきものをときこえ給へとけにゝくからすかきならしてみなたち給ぬあかすくちおしといふかひなきほうしわらはへも涙をおとしあへりましてうちにはとしおいたるあまきみたちなとまたさらにかゝる人の御ありさまをみさりつれはこの世のものともおほえたまはすときこえあへり僧都もあはれなにの契にてかゝる御さまなからいとむつかしきひのもとのするゑの世にうまれ給へらむとみるにいとなむかなしきとてめをしのこひ給このわかきみおさな心ちにめてたき人かなとみたまひて宮の御ありさまよりもまさり給へるかななとの給さらはかの人の御こになりておはしませよときこゆれはうちうなつきていとようありなむとおほしたりひいなあそひにもゑかい給ふにも源氏のきみとつくりいてゝきよらなるきぬきせかしつき給ふ君はまつうちにまひり給て日ころの御ものかたりなときこえ給いといたうおとろへにけりとてゆゝしとおほしめしたりひしりのたうとかりける事なとゝはせ給くはしくそうし給へはあさりなとにもなるへきものにこそあなれをこなひのらうはつもりておほやけにしろしめされさりける事とらうたかりのたまはせけり大殿まいりあひ給て御むかへにもとおもひ給へつれとしのひたる御ありきにいかゝと思ひはゝかりてなむのとやかに一二日うちやすみ給へとてやかて御をくりつかうまつらむと申たまへはさしもおほさねとひかされてまかてたまふわか御車にのせたてまつり給ふてみつからはひきいりてたてまつれりもてかしつきゝこえ給へる御心はへのあはれなるをそさすかに心くるしくおほしける殿にもおはしますらむと心つかひし給てひさしくみたまはぬほといとゝたまのうてなにみかきしつらひよろつをとゝのへ給へり女君れいのはひかくれてとみにもいて給はぬをおとゝせちにきこえ給てからうしてわたり給へりたゝゑにかきたるものゝひめきみのやうにしすへられてうちみしろき給事もかたくうるはしうてものし給へはおもふこともうちかすめ山みちのものかたりをもきこえむいふかひありておかしういらへたまはゝこそあはれならめ世には心もとけすうとくはつかしきものにおほしてとしのかさなるにそへて御心のへたてもまさるをいとくるしくおもはすにとき　くは世のつねなる御けしきをみはやたへかたうわつらひ侍しをもいかゝとたにとひ給はぬこそめつらしからぬ事なれと猶うらめしうときこえ給からうしてとはぬはつらきものにやあらんとしりめにみをこせ給へるまみいとはつかしけにけたかううつくしけなる御かたちなりまれまれはあさましの御事やとはぬなといふきはゝことにこそ侍なれ心うくもの給ひなすかなよととともにはしたなき御もてなしをもしおほし

なおるおりもやととさまかうさまに心みきこゆるほといとゝおもほしうとむなめりかしよしやいのちたにとてよるのおましにいり給ひぬ女きみふともいり給はすきこえわつらひ給ひてうちなけきてふし給へるもなま心つきなきにやあらむねふたけにもてなしてとかう世をおほしみたることおほかりこのわかくさのおひいてむほとのなをゆかしきをにけないほとゝおもへりしもことはりそかしいひよりかたき事にもあるかないかにかまへてたゝ心やすくむかへとりてあけくれのなくさめにみん兵部卿の宮はいとあてになまめい給へれとにほひやかになともあらぬをいかてかのひとそうにおほえ給らむひとつきさきはらなれはにやなとおほすゆかりいとむつましきにいかてかとふかうおほゆ又の日御ふみたてまつれ給へりそうつにもほのめかし給ふへしあまうへにはもてはなれたりし御けしきのつゝましさにおもひ給ふるさまをもえあらはしはて侍らすなりにしをなむかはかりきこゆるにてもをしなへたらぬ心さしのほとを御らんししらはいかにうれしうなとあり中にちひさくひきむすひて

面影は身をもはなれす山桜心のかきりとめてこしかとよのまの風もうしろめたくなむとあり御てなとはさるものにてたたはかなうをしつゝみ給へるさまもまたすきたる御めともにはめもあやにこのましうみゆあなかたはらいたやいかゝきこえんとおほしわつらふゆくての御事はなをさりにも思給へなされしをふりはへさせ給へるにきこえさせむかたなくなむまたなにはつをたにはか　くしうつゝけ侍らさめれはかひなくなむさても

嵐吹おのへのさくらちらぬまを心とめけるほとのはかなさいとゝうしろめたうとあり僧都の御返もおなしさまなれはくちおしくて二三日ありてこれみつをそたてまつれ給少納言のめのとといふ人あへしたつねてくはしふかたらへなとの給しらすさもかゝらぬくまなき御心かなさはかりいはけなけなりしけはひをとまほならねともみしほとを思ひやるもおかしわさとかう御ふみあるをそうつもかしこまりきこえ給ふ少納言にせうそこしてあひたりくはしくおほしの給ふさまおほかたの御ありさまなとかたることはおほかる人にてつき　くしういひつゝくれといとわりなき御ほとをいかにおほすにかとゆゝしうなむたれも

くおほしける御ふみにもいとねむころにかいたまひてれいの中にかの御はなちかきなむなをみたまへまほしきとて

あさか山あさくも人をおもはぬになとやまの井のかけはなるらむ御かへし

くみそめてくやしときゝし山の井のあさきなからやかけをみるへきこれみつもおなしことをきこゆこのわつらひ給事よろしくはこのころすくして京の殿

にわたり給てなむきこえさすへきとあるを心もとなうおほすふしつほの宮なやみ給ふことありてまかて給へりうへのおほつかなかりなけきゝこえ給ふ御けしきもいと　くおしうみたてまつりなからかゝるおりたにと心もあくかれまとひていつくにも　くまうて給はすうちにてもさとにてもひるはつれ　くとなかめくらしてくるれはわう命婦をせめありき給いかゝたはかりけむいとわりなくてみたてまつるほとさへうつゝとはおほえぬそわひしきや宮もあさましかりしをおほしいつるたによととものおもひなるをさてたにやみなむとふかうおほしたるにいとうくていみしき御けしきなるものからなつかしうらうたけにさりとてうちとけすこゝろふかうはつかしけなる御もてなしなとのなを人にゝさせ給はぬをなとかなのめなることたにうちましり給はさりけむとつらうさへそおほさるゝなに事をかはきこえつくし給はむくらふの山にやとりもとらまほしけなれとあやにくなるみしか夜にてあさましう中　くなり

　みても又あふ夜まれなる夢のうちにやかてまきるゝわか身ともかなとむせかへり給ふさまもさすかにいみしけれは

　よかたりに人やつたへんたくひなくうき身をさめぬ夢になしてもおほしみたれたるさまもいとことはりにかたしけなし命婦のきみそ御なをしなとはかきあつめもてきたる殿におはしてなきねにふしくらし給ひつ御ふみなともれいの御らんしいれぬよしのみあれはつねのことなからもつらういみしうおほしほれてうちへもまひらて二三日こもりおはすれは又いかなるにかと御心うこかせ給へかめるもおそろしうのみおほえ給ふ宮もなをいと心うきみなりけりとおほしなけくになやましさもまさり給ひてとくまひり給へき御つかひしきれとおほしもたゝすまことに御心ちれいのやうにもおはしまさぬはいかなるにかと人しれすおほす事もありけれは心うくいかならむとのみおほしみたるあつきほとはいとゝおきもあかり給はす三月になり給へはいとしるきほとにて人　くみたてまつりとかむるにあさましき御すくせのほと心うし人は思ひよらぬことなれはこの月まてそうせさせ給はさりける事とおとろききこゆわか御心ひとつにはしるうおほしわく事もありけり御ゆ殿なとにもしたしうつかふまつりてなに事の御けしきをもしるくみたてまつりしれる御めのとこの弁命婦なとそあやしとおもへとかたみにいひあはすへきにあらねはなをのかれかたかりける御すくせをそ命婦はあさましとおもふうちには御ものゝけのまきれにてとみにけしきなうおはしましけるやうにそそうしけむかしみる人もさのみおもひけりいとゝあはれにかきりなうおほされて御つかひなとのひまなきも空おそろしうものをおほす

事ひまなし中将のきみもおとろ　くしうさまことなる夢をみ給てあはするものをめしてとはせ給へはをよひなうおほしもかけぬすちのことをあはせけりその中にたかいめありてつゝしませ給ふへきことなむ侍るといふにわつらはしくおほえてみつからの夢にはあらす人の御事をかたるなりこの夢あふまて又人にまねふなとの給て心のうちにはいかなる事ならむとおほしわたるにこの女宮の御事きゝ給ひてもしさるやうもやとおほしあはせたまふにいとゝしくいみしき事のはつくしきこえ給へと命婦もおもふにいとむくつけうわつらはしさまさりてさらにたはかるへきかたなしはかなきひとくたりの御返のたまさかなりしもたえはてにたり七月になりてそまひり給ひけるめつらしうあはれにていとゝしき御おもひのほとかきりなしすこしふくらかになり給ひてうちなやみおもやせたまへるはたけににるものなくめてたしれいのあけくれこなたにのみおはしまして御あそひもやう　くおかしき空なれは源氏の君もいとまなくめしまつはしつゝ御ことふえなとさま　くにつかうまつらせ給ふいみしうつゝみ給へとしのひかたきけしきのもりいつるおり　く宮もさすかなる事ともをおほくおほしつゝけゝりかの山てらの人はよろしくなりていて給にけり京の御すみかたつねて時ゝの御せうそこなとありおなしさまにのみあるもことはりなるうちにこの月ころはありしにまさる物おもひにこと　くなくてすきゆく秋のするつかたいともの心ほそくてなけき給ふ月のおかしき夜しのひたる所にからうして思ひたち給へるをしくれめいてうちそゝくおはする所は六条京極わたりにて内よりなれはすこしほととをき心ちするにあれたるいゑのこたちいとものふりてこくらくみえたるありれいの御ともにはなれぬこれみつなむこ按察の大納言のいゑに侍りてものゝたよりにとふらひて侍しかはかのあまうへいたうよわり給にたれはなに事もおほえすとなむ申して侍しときこゆれはあはれの事やとふらふへかりけるをなとかさなむとものせさりしいりてせうそこせよとのたまへは人いれてあないせさすわさとかうたちより給へる事といはせたれはいりてかく御とふらひになむおはしましたるといふにおとろきていとかたはらいたき事かなこの日ころむけにいとたのもしけなくならせ給ひにたれは御たいめんなともあるましといへともかへしたてまつらむはかしこしとてみなみのひさしひきつくろひていれたてまつるいとむつかしけに侍れとかしこまりをたにとてゆくりなうものふかきおまし所になむときこゆけにかゝる所はれいにたかひておほさるつねに思ひ給へたちなからかひなきさまにのみもてなさせ給ふにつゝまれ侍りてなむなやませ給ふことをもくともうけたまはらさりけるおほつかなさなときこえ給ふ

みたり心ちはいつともなくのみ侍るかかきりのさまになり侍りていとかたしけなくたちよらせ給へるにみつからきこえさせぬことのたまはすることのすちたまさかにもおほしめしかはらぬやう侍らはかくわりなきよはひすき侍りてかならすかすまへさせ給へいみしう心ほそけにみたまへをくなんねかひ侍るみちのほたしに思たまへられぬへきなときこえ給へりいとちかけれは心ほそけなる御こゑたえ　くきこえていとかたしけなきわさにも侍るかなこの君たにかしこまりもきこえたまつへきほとならましかはとの給ふあはれにきゝ給てなにかあさう思ひ給へむ事ゆへかうすき　くしきさまをみえたてまつらむいかなるちきりにかみたてまつりそめしよりあはれにおもひきこゆるもあやしきまてこの世の事にはおほえ侍らぬなとの給てかひなき心地のみし侍るをかのいはけなうものし給御ひとこゑいかてとの給へはいてやよろつおほししらぬさまにおほとのこもりいりてなときこゆるおりしもあなたよりくるをとしてうへこそこのてらにありし源氏のきみこそおはしたなれなとみたまはぬとの給ふを人　くいとかたはらいたしと思ひてあなかまときこゆいさみしかは心地のあしさなくさみきとの給ひしかはそかしとかしこきことききこえたりとおほしての給ふいとおかしときい給へと人　くのくるしと思ひたれはきかぬやうにてまめやかなる御とふらひをきこえをき給てかへり給ひぬけにいふかひなのけはひやさりともいとようをしへてむとおほす又の日もいとまめやかにとふらひきこえ給ふれいのちひさくて

いはけなきたつの一こゑききしよりあしまになつむ舟そえならぬおなし人にやとことさらおさなくかきなし給へるもいみしうおかしけなれはやかて御てほむにと人　くきこゆ少納言そききこえたるとはせ給へるはけふをもすくしかたけなるさまにて山寺にまかりわたるほとにてかうとはせ給へるかしこまりはこの世ならてもきこえさせむとありいとあはれとおほす秋の夕はまして心のいとまなくおほしみたるゝ人の御あたりに心をかけてあなかちなるゆかりもたつねまほしき心もまさり給ふなるへしきえむ空なきとありし夕おほしいてられてこひしくも又みはおとりやせむとさすかにあやふし

手につみていつしかもみむむらさきのねにかよひけるのへのわか草十月にすさく院の行かうあるへしまひ人なとやむ事なきいゑのこともかむたちめ殿上人ともなともそのかたにつき　くしきはみなえらせ給へれはみこたち大臣よりはしめてとり　くのさえともならひ給いとまなし山さと人にもひさしくをとつれ給はさりけるをおほしいてゝふりはへつかはしたりけれはそうつのかへり事

のみありたちぬる月の廿日のほとになむつゐにむなしくみ給へなしてせけむのたうりなれとかなしひ思ひ給ふるなとあるをみ給に世のなかのはかなさもあはれにうしろめたけに思へりし人もいかならむおさなきほとに恋やすらむこみや
す所にをくれたてまつりしなとはか　くしからねと思ひいてゝあさからすとふらひ給へり少納言ゆへなからす御かへりなときこえたりいみなとすきて京のとのになときゝ給へはほとへて身つからのとかなる夜おはしたりいとすこけにあれたる所のひとすくなゝるにいかにおさなき人おそろしからむとみゆれいの所
にいれたてまつりて少納言御ありさまなとうちなきつつきこえつゝくるにあいなう御そてもたゝならす宮にわたしたてまつらむと侍めるをこひめきみのいとなさけなくうきものに思ひきこえ給へりしにいとむけにちこならぬよはひの又
はか　くしう人のおもむけをもみしり給はすなかそらなる御ほとにてあまたものし給ふなる中のあなつらはしき人にてやましり給はんなとすき給ぬるもよとゝもにおほしなけきつることしるきことおほく侍るにかくかたしけなきなけの
御ことのはゝのちの御心もたとりきこえさせすいとうれしうおもひ給へられぬへきおりふしに侍りなからすこしもなそらひなるさまにもものし給はす御としよりもわかひてならひ給へれはいとかたはらいたく侍るときこゆなにかかうくりかへしきこえしらする心のほとをつゝみ給らむそのいふかひなき御心のありさまのあはれにゆかしうおほえたまふもちきりことになむ心なからおもひしられけるなを人つてならてきこえしらせはや

あしわかのうらにみるめはかたくともこはたちなからかへるなみかはめさましからむとの給へはけにこそいとかしこけれとて

よるなみの心もしらてわかのうらにたまもなひかぬほとそうきたるわりなき事ときこゆるさまのなれたるにすこしつみゆるされ給ふなそこえさらんとうちすしたまへるを身にしみてわかき人　くおもへり君はうへをこいきこえ給ひてなきふしたまへるに御あそひかたきとものなをしきたる人のおはする宮のおはしますなめりときこゆれはおきいて給ひて少納言よなをしきたりつらむはいつら宮のおはするかとてよりおはしたる御こゑいとらうたし宮にはあらねと又おほしはなつへうもあらすこちとの給ふをはつかしかりし人とさすかにきゝなしてあしういひてけりとおほしてめのとにさしよりていさかしねふたきにとの給へはいまさらになとしのひ給らむこのひさのうへにおほとのこもれよいますこしより給へとの給へはめのとのされはこそかう世つかぬ御ほとにてなむとてをしよせたてまつりたれはなに心もなくゐたまへるにてをさしいれてさくり給

へれはなよゝかなる御そにかみはつや　くとかゝりてするゑのふさやかにさくり
つけられたるいとうつくしうおもひやらるるてをとらへたまへれはうたてれい
ならぬ人のかくちかつき給へるはおそろしうてねなむといふものをとてしひて
ひきいり給につきてすへりいりていまはまろそ思へき人なうとみ給そとのたま
ふめのといてあなうたてやゆゝしうも侍るかなきこえさせしらせ給ともさらに
なにのしるしも侍らしものをとてくるしけに思ひたれはさりともかゝる御ほと
をいかゝはあらんなをたゝ世にしらぬ心さしのほとをみはて給へとの給あられ
ふりあれてすこき夜のさまなりいかてかう人すくなに心ほそうてすくし給ふら
むとうちなひ給ていとみすてかたきほとなれはみかうしまいりねものおそろし
き夜のさまなめるをとのゐ人にて侍らむ人　くちかふさふらはれよかしとてい
となれかほにみ帳のうちにいり給へはあやしうおもひのほかにもとあきれてた
れも　くゐたりめのとはうしろめたなうわりなしとおもへと荒ましうきこえさ
はくへきならねはうちなけきつゝゐたりわかきみはいとおそろしういかならん
とわななかれていとうつくしき御はたつきもそゝろさむけにおほしたるをらう
たくおほえてひとへはかりをゝしくゝみてわか御心ちもかつはうたておほえ給
へとあはれにうちかたらひ給ひていさたまへよおかしきゑなとおほくひゝなあ
そひなとするところにと心につくへき事をの給ふけはひのいとなつかしきをお
さなき心ちにもいといたうをちすさすかにむつかしうねもいらすおほえてみし
ろきふしたまへり夜ひとよ風ふきあるるにけにかうおはせさらましかはいかに
心ほそからましおなしくはよろしきほとにおはしまさましかはとさゝめきあへ
りめのとはうしろめたさにいとちかふさふらふかせすこしふきやみたるに夜ふ
かういて給ふもことありかほなりやいとあはれにみたてまつる御ありさまをい
まはましてかたときのまもおほつかなかるへしあけくれなかめ侍るところにわ
たしたてまつらむかくてのみはいかゝものをちし給はさりけりとの給へは宮も
御むかへになときこえの給ふめれとこの御四十九日すくしてやなと思ふ給ふる
ときこゆれはたのもしきすちなからもよそ　くにてならひ給へるはおなしうこ
そうとうおほえたまはめいまよりみたてまつれとあさからぬ心さしはまさりぬ
へくなむとてかいなてつゝかへりみかちにていて給ひぬいみしうきりわたれる
空もたゝならぬにしもはいとしろうをきてまことのけさうもおかしかりぬへき
にさう　くしうおもひおはすいとしのひてかよひ給ふところのみちなりけるを
おほしいてゝかとうちたゝかせ給へときゝつくるひとなしかひなくて御ともに
こゑある人してうたはせ給ふ

あさほらけきりたつ空のまよひにも行すきかたきいもかかとかなとふたかへりはかりうたひたるによしあるしもつかひをいたして

たちとまりきりのまかきのすきうくは草の戸さしにさはりしもせしといひかけて入ぬ又人もいてこねはかへるもなさけなけれとあけゆく空もはしたなくて殿へおはしぬおかしかりつる人のなこり恋しくひとりゑみしつゝふし給へりひたかうおほとのこもりおきてふみやり給ふにかくへきこと葉もれいならねはふてうちをきつゝすさひゐたまへりおかしきゑなとをやり給ふかしこにはけふしも宮わたり給へりとしころよりもこよなうあれまさりひろうものふりたる所のいとゝ人すくなにひさしけれはみわたし給てかゝる所にはいかてかしはしもおさなき人のすくし給はむ猶かしこにわたしたてまつりてむなにのところせきほとにもあらすめのとはさうしなとしてさふらひなむ君はわかき人　くあれはもろともにあそひていとようものし給ひなむなとの給ふちかうよひよせたてまつりたまへるにかの御うつりかのいみしうえむにしみかへらせ給へれはおかしの御にほひや御そはいとなへてと心くるしけにおほいたりとしころもあつしくさたすき給へる人にそひ給へるよかしこにわたりてみならし給へなとものせしをあやしううとみ給て人も心をくめりしをかゝるおりにしもものし給はむも心くるしうなとの給へはなにかは心ほそくともしはしはかくておはしましなむすこしものゝこゝろおほししりなむにわたらせ給はむこそよくは侍へけれときこゆよるひるこひきこえたまふにはかなきものもきこしめさすとてけにいといたうおもやせ給へれといとあてにうつくしくなか　くみえたまふなにかさしもおほすいまは世になき人の御事はかひなしをのれあれはなとかたらひきこえ給ひてくるれはかへらせ給ふをいと心ほそしとおほゐてない給へは宮うちなき給ひていとかうおもひないり給そけふあすわたしたてまつらむなとかへす　くこしらへをきていて給ひぬなこりもなくさめかたうなきゐ給へりゆくさきの身のあらむ事なとまてもおほししらすたゝ年ころたちはなるゝおりなうまつはしならひていまはなき人となり給ひにけるとおほすかいみしきにおさなき御心ちなれとむねつとふたかりてれいのやうにもあそひ給はすひるはさてもまきらはし給ふをゆふくれとなれはいみしくくし給へはかくてはいかてかすこし給はむとなくさめわひてめのともなきあへりきみの御もとよりはこれみつをたてまつれ給へりまいりくへきをうちよりめしあれはなむ心くるしうみたてまつりしもしつ心なくとてとのゐ人たてまつれ給へりあちきなうもあるかなたはふれにてもものゝはしめにこの御事よ宮きこしめしつけはさふらふ人　くのをろかなるにそ

さいなまむあなかしこものゝついてにいはけなくうちいてきこえさせ給ふななといふもそれをはなにともおほしたらぬそあさましきや少納言はこれみつにあはれなるものかたりともしてありへてのちやさるへき御すくせのかれきこえ給はぬやうもあらむたゝいまはかけてもいとにけなき御事とみたてまつるをあやしうおほしの給はするもいかなる御こゝろにかおもひよるかたなうみたれ侍るけふもみやわたらせ給てうしろやすくつかうまつれ心おさなくもてなしきこゆなとの給はせつるもいとはつらはしうたゝなるよりはかゝる御すき事も思ひいてられ侍りつるなといひてこの人も事ありかほにや思はむなとあいなけれはいたうなけかしけにもいひなさすたいふもいかなることにかあらむと心えかたふおもふまいりてありさまなときこえけれはあはれにおほしやらるれとさてかよひ給はむもさすかにすゝろなる心ちしてかる　くしうもてひかめたると人もやもりきかむなとつゝましけれはたゝむかへてむとおほす御ふみはたひ　くたてまつれ給くるれはれいのたいふをそたてまつれ給ふさはる事とものありてえまいりこぬををろかにやなとあり宮よりあすにはかに御むかへにとのたまはせたりつれは心あはたゝしくてなむとしころのよもきふをかれなむもさすかに心ほそくさふらふ人　くもおもひみたれてとことすくなにいひておさ　くあへしらはすものぬひいとなむけはひなとしるけれはまいりぬきみは大殿におはしけるにれいの女君とみにもたいめむしたまはすものむつかしくおほえ給てあつまをすかかきてひたちにはたをこそつくれといふうたをこゑはいとなまめきてすさひゑたまへりまいりたれはめしよせてありさまとひたまふしか　くなときこゆれはくちおしうおほしてかの宮にわたりなはわさとむかへいてむもすき　くしかるへしおさなき人をぬすみいてたりともときおひなむそのさきにしはし人にもくちかためてわたしてむとおほしてあか月かしこにものせむ車のそうそくさなからすいしんひとりふたりおほせをきたれとの給ふうけたまはりてたちぬきみいかにせましきこえありてすきかましきやうなるへきこと人のほとたにものをおもひしり女の心かはしける事とをしはかられぬへくは世のつねなりちゝ宮のたつねいて給へらむもはしたなうすゝろなるへきをとおほしみたるれとさてはつしてむはいとくちおしかへけれはまた夜ふかういて給女きみれいのしふ
　くに心もとけすものし給かしこにいとせちにみるへき事の侍るをおもひ給へいてゝたちかへりまいりきなむとていて給へはさふらふ人ゝもしらさりけりわか御かたにて御なをしなとはたてまつるこれみつはかりを馬にのせておはしぬかとうちたゝかせ給へは心しらぬ物のあけたるに御くるまをやをらひき入させ

てたいふつまとをならしてしはふけは少納言きゝしりていてきたりこゝにおはしますといへはおさなき人は御とのこもりてなむなとかいと夜ふかうはいてさせ給へるとものゝたよりとおもひていふ宮へわたらせ給へかなるをそのさきにきこえをかむとてなむとの給へはなに事にか侍らむいかにはか　くしき御いらへきこえさせ給はむとてうちわらひてゐたりきみいり給へはいとかたはらいたくうちとけてあやしきふる人ともの侍るにときこえさすまたおとろい給はしないて御めさましきこえむかゝるあさきりをしらてはぬるものかとて入給へはやともえきこえすきみはなに心もなくねたまへるをいたきおとろかし給におとろきて宮の御むかへにおはしたるとねをひれておほしたり御くしかきつくろひなとし給ていさ給へ宮の御つかひにてまゐりきつるそとの給にあらさりけりとあきれておそろしとおもひたれはあな心うまろもおなし人そとてかきいたきていて給へはたいふ少納言なとこはいかにときこゆこゝにはつねにもえまいらぬかおほつかなけれは心やすき所にときこえしを心うくわたり給へるなれはましてきこえかたかへけれは人ひとりまいられよかしとの給へは心あはたゝしくてけふはいとひむなくなむ侍へき宮のわたらせ給はんにはいかさまにかきこえやらんをのつからほとへてさるへきにおはしまさはともかうも侍りなむをいと思ひやりなきほとのことに侍れはさふらふ人　くくるしう侍るへしときこゆれはよしのちにも人はまいりなむとて御車よせさせ給へはあさましういかさまにと思ひあへりわか君もあやしとおほしてない給ふ少納言とゝめきこえむかたなけれはよへぬひし御そともひきさけてみつからもよろしきゝぬきかへてのりぬ二条院はちかけれはまたあかうもならぬほとにおはしてにしのたいに御車よせており給ふわかきみをはいとかろらかにかきいたきておろし給ふ少納言なをいと夢の心ちし侍るをいかにし侍へき事にかとやすらへはそは心ななり御身つからわたしたてまつりつれはかへりなむとあらはをくりせむかしとの給にわらひておりぬにはかにあさましうむねもしつかならす宮のおほしの給はむことといかになりはて給ふへき御ありさまにかとてもかくてもたのもしき人　くにをくれ給へるかいみしさとおもふに涙のとまらぬをさすかにゆゝしけれはねむしゐたりこなたはすみ給はぬたいなれは御帳なともなかりけりこれみつめしてみ帳御屏風なとあたり　くしたてさせ給御き丁のかたひらひきおろしおましなとたゝひきつくろふはかりにてあれはひむかしのたいに御とのゐものめしにつかはしておほとのこもりぬわか君はゐとむくつけくいかにする事ならむとふるはれ給へとさすかにこゑたてゝもえなき給はす少納言かもとにねむとの給こゑいとわかし

いまはさはおほとのこもるましきそよとをしへきこえ給へはいとわひしくてなきふし給へりめのとはうちもふされすものもおほえすおきゐたりあけゆくまゝにみわたせはおとゝのつくりさましつらひさまさらにもいはすにはのすなこもたまをかさねたらむやうにみえてかゝやく心地するにはしたなくおもひゐたれとこなたには女なともさふらはさりけりけうときまらうとなとのまいるおりふしのかたなりけれはおとこともそみすのとにありけるかく人むかへ給へりときく人たれならむおほろけにはあらしとさゝめく御てうつ御かゆなとこなたにまいるひたかうねをき給てひとなくてあしかめるをさるへき人　くゆふつけてこそはむかへさせ給はめとの給てたいにはらはへめしにつかはすちゐさきかきりことさらにまいれとありけれはいとおかしけにて四人まいりたり君は御そにまとはれてふし給へるをせめておこしてかう心うくなをはせそすゝろなる人はかうはありなむや女は心やはらかなるなむよきなといまよりをしへきこえ給御かたちはさしはなれてみしよりもきよらにてなつかしううちかたらひつゝおかしきゐゑあそひ物ともとりにつかはしてみせたてまつり御心につく事ともをし給やう　くおきゐてみ給にひいろのこまやかなるかうちなえたるともをきてなに心なくうちゐゑみなとしてゐ給へるかいとうつくしきにわれもうちゐまれてみ給ひむかしのたいにわたり給へるにたちいてゝにはのこたちいけのかたなとのそき給へはしもかれのせむさいゐにかけるやうにおもしろくてみもしらぬしゐ五ゐこきませにひまなういていりつゝけにおかしき所かなとおほす御屏風ともなといとおかしきゐゑをみつゝなくさめておはするもはかなしや君は二三日うちへもまいり給はてこの人をなつけかたらひきこえ給やかてほむにとおほすにやてならひゐなとさま　くにかきつゝみせたてまつり給いみしうおかしけにかきあつめ給へりむさしのといへはかこたれぬとむらさきのかみにかい給へるすみつきのいとことなるをとりてみゐたまへりすこしちいさくて

　ねはみねとあはれとそおもふむさしのゝ露わけわふる草のゆかりをとありいて君もかい給へとあれはまたようはかゝすとてみあけ給へるかなに心なくうつくしけなれはうちほゝゑみてよからねとむけにかゝぬこそわろけれをしへきこえむかしとの給へはうちそはみてかい給てつきふてとり給へるさまのおさなけなるもらうたうのみおほゆれは心なからあやしとおほすかきそこなひつとはちてかくし給をせめてみたまへは

　かこつへきゆへをしらねはおほつかなないかなる草のゆかりなるらんといとわかけれとおいさきみえてふくよかにかい給へりこあまきみのにそにたりける

いまめかしきてほむならはゝいとようかいたまひてむとみ給ひゐなゝとわさとやともつくりつゝけてもろともにあそひつゝこよなきもの思のまきらはしなりかのとまりにし人　く宮わたり給てたつねきこえ給けるにきこえやるかたなくてそわひあへりけるしはし人にしらせしと君もの給少納言も思ふ事なれはせちにくちかためやりたりたゝ行ゐもしらす少納言かいてかくしきこえたるとのみきこえさするに宮もいふかひなうおほしてこあま君もかしこにわたり給はむ事をいとものしとおほしたりし事なれはめのとのいとさしすくしたる心はせのあまりおいらかにわたさむをひむなしなとはいはてこゝろにまかせゐてはふらかしつるなめりとなく　くかへり給ぬもしきゝいてたてまつらはつけよとの給もわつらはしくそうつの御もとにもたつねきこえ給へとあとはかなくてあたらしかりし御かたちなと恋しくかなしとおほすきたのかたもはゝきみをにくしと思きこえ給ける心もうせてわか心にまかせつへうおほしけるにたかひぬるはくちをしうおほしけりやう　く人まいりあつまりぬ御あそひかたきのわらはへちことともいとめつらかにいまめかしき御ありさまともなれはおもふ事なくてあそひあへりきみはおとこきみのおはせすなとしてさう　くしきゆふくれなとはかりそあま君をこひきこえ給てうちなきなとし給へと宮おはことにおもひいてきこえ給はすもとよりみならひきこえ給はてならひ給へれはいまはたゝこのゝちのおやをいみしうむつひまつはしきこえ給ものよりおはすれはまついてむかひてあはれにうちかたらひ御ふところにいりゐていさゝかうとくはつかしともおもひたらすさるかたにいみしううたきわさなりけりさかしら心ありなにくれとむつかしきすちになりぬれはわか心地もすこしたかふふしもいてくやと心をかれ人もうらみかちに思ひのほかの事をのつからいてくるをいとをかしきもてあそひなりむすめなとはたかはかりになれは心やすくうちふるまひへたてなきさまにふしおきなとはえしもすさましきをこれはいとさまかはりたるかしつきくさなりとおもほいためり